

◆私のカンボジア支援（2001年からカンボジアで支援開始、住田代表理事の回顧録）

一その9一 「空腹では勉強に身が入らない。朝給食をしてくれないか。」2004年

2004年10月、公益財団法人SAJで建設した第1号校舎の使われ方と授業の様子を見に行きました。

今回もまた村の長老8人が待っていてくれて、一緒に校舎と授業を見て回りました。

教室は掃除がきれいにされて、生徒は階段下で草履を脱ぎ、裸足で教室に入って授業を受けていました。校庭にもゴミは無く、校庭の端に穴を掘り、ゴミを燃やしていました。

長老たちは、「この校舎は州で一番初めに建った鉄筋校舎だ！私たち村の誇りです。子ども達にしっかり勉強させています。村の子どもが居る家々を回って、学校に行かせるように話しています。今は、80%の子どもが学校に通っています。この校舎が出来て、村の様子が変わった。活気が出てきた。村がまとまって来た。有難う。」と何度も何度もお礼を言われました。

(右の写真は現在のポットロン小学校の掃除の様子です。)

話の終わりに、長老の一人が「この村は貧しくて、朝ご飯を食べられない家が多い。今、教室で子どもを見ると、ぼんやりしている子もいる。

お腹が空いて、勉強に身が入らないのです。貧しくて1日1回しかご飯を食べられない家には、お寺のお祭りでお金を集めて、お米を上げています。朝ご飯を食べれば元気になり、勉強に身が入ります。私たちも、村の子どもにしっかり勉強するよう働きかけます。校舎が出来てから、先生もよく教えてくれています。村でも学校に協力しています」と、長老たちは口々に思いを述べ、朝給食をしてくれるように頼まれました。

私は、これはお金がかかるな。どうしよう？でも何とか実現したい！と思いつつ、「しばらく考えさせてください。」学校からプノンペンへの帰途、閃いたのは、国連のWFP(世界食糧計画)カンボジア支部に相談してみようでした。相談の申し込みをして数日後、プノンペンのWFPカンボジア支部から返事が来ました。

会ってくれたのはオーストラリア人の副所長さんとカンボジア人の給食配給の担当者・カニタさんでした。

WFPの朝給食もカンボジアの一部の地域でしか実施されていない時代でした。話は、英語(副所長)→クメール語(カニタさん)→日本語(通訳)と通訳されて時間はかかりましたが、私の思いは通じました。副所長さんから「内部で検討します。」の返事をいただきました。(これは、上手くいくかな！)と期待を持ちました。

それから2ヶ月後「具体的な話を聞きたい。」との返事が来て、資料をもってWFPカンボジア支部を訪問しました。

所長のトーマスさんと担当のカニタさんが会ってくれました。「良い提案だと思う。だがWFPは今まで他の団体に委託して朝給食を実施したことは無い。初めての試みだ。この計画を良く検討して、調査して返事をする。」と、好意的な回答を頂きました。(これはうまくいくぞ！)と、希望が湧きました。

帰りがけに所長さんが「私の妻は日本人だ。家に寄って話をしてくれないか。」と誘われました。遠慮なく付いていくと、プノンペンの高級住宅街にある8階建てマンションのワンフロアで、部屋数も多くきれいで安全なマンションでした。所長さんと奥さんと1時間ほど話しました。世界中の開発途上国を支援するので、転勤が多く子どもの教育に困っているそうです。カンボジアでは、アメリカ大使館が運営する学校に通っているとの事でした。帰り際に「住田さん、私からも主人に頼っておきますから、頑張ってくださいね！」と、嬉しい励ましの言葉を頂きました。(続く)



村は貧しくて、朝ご飯を食べられない家が多い。

◇ご支援をお願いいたします。

教育環境を整え、貧しい子に教育の機会を提供し、先生に指導力の向上のお手伝いをしています。SSFCの活動へのご支援をお願いいたします。寄附金のお振込みは、右記からお願いいたします。

- 三菱UFJ銀行 神保町支店
口座番号(普) 0968555
- ゆうちょ銀行 00110-2-767497
口座名:公益社団法人 SSFカンボジア

詳しい解説・近況報告はSSFCホームページに掲載(ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>)しております。ぜひご覧ください。右のQRコードからもアクセスできます。お問い合わせは、TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019 E-mail:info@ssf.or.jp



※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「によにゆむ通信」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。



ញឹម によにゆむは、カンボジア語で「笑顔」という意味です。

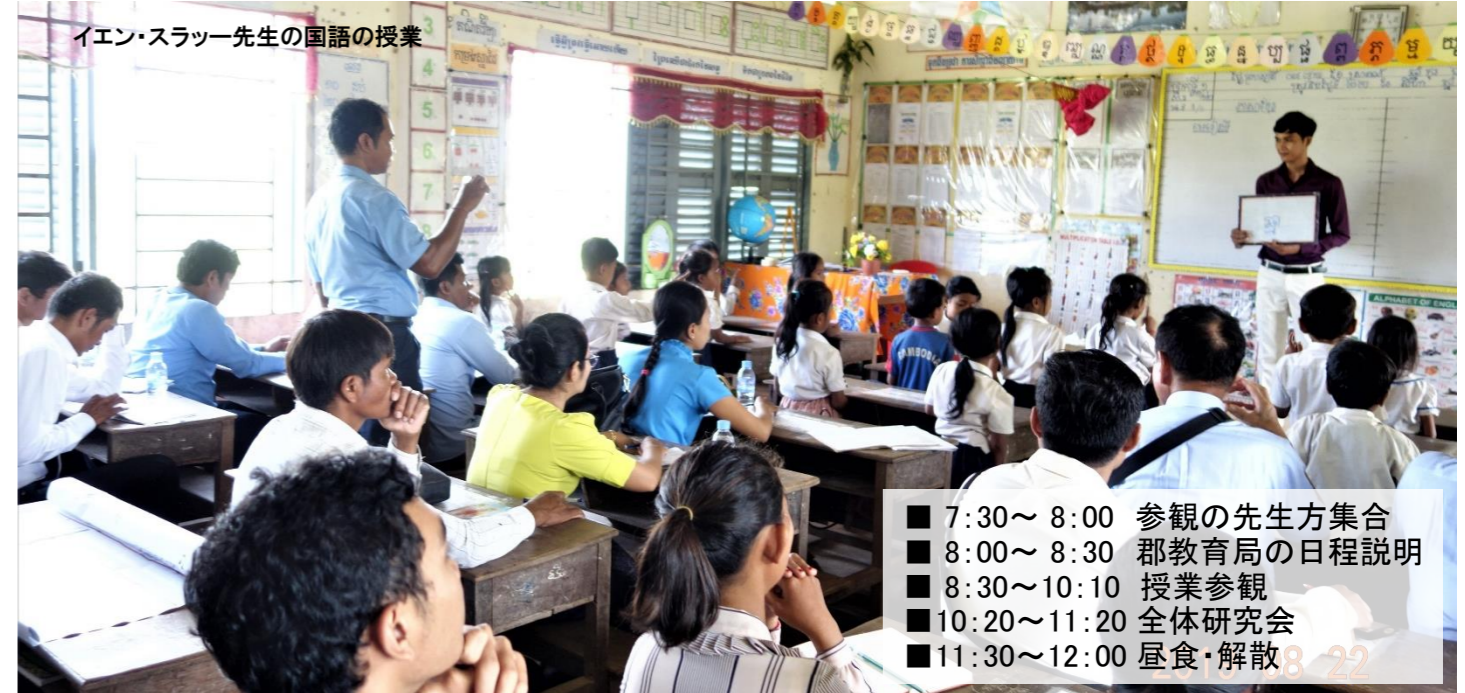
によにゆむ通信

2019年8月号 No.20

公益社団法人
Sumita Scholarship Foundation, Cambodia
(SSFC) 代表理事 住田平吉
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町2-44
第二石坂ビル502
TEL:03-6272-5717 FAX:03-3511-5019
E-mail:info@ssf.or.jp
ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆「授業発表会」報告第二弾 2019年8月22日:ポットロン小学校(コンポンチュナン州)

7月のスレイ・ピボケイ中学に続き、ポットロン小学校で「授業発表会」を開催しました。事前検討を8月20日、模擬授業を21日、そして22日の本番に臨みました。生徒は20名、参観の先生のほうが多い発表会です。



イエン・スラー先生の国語の授業

- 7:30~8:00 参観の先生方集合
- 8:00~8:30 郡教育局の日程説明
- 8:30~10:10 授業参観
- 10:20~11:20 全体研究会
- 11:30~12:00 昼食・解散

■8月22日朝5時プノンペンのホテルを出てポットロン小学校に向かいました。ポットロン小学校まではプノンペンから2時間半かかります。遅れることは出来ません。途中の食堂で予約しておいた弁当50個と水100本を買い、チューキリー郡の船着き場に急ぎました。雇った小舟に弁当と水を積み込んでトンレサップ川を横切り支流の川を走る事45分、ポットロン小学校に着きました。



参加者の昼食も用意します。

◇全員が教室に集まり「授業発表会」の説明が始まりました。

■州教育長代理の挨拶:この集まりの目的は、先生たちが良い授業が出来るようになるためだ。イエン・スラー先生の国語の授業は自作の教具を作って生徒の興味を高めた。生徒全員が意見を言って、1時間中楽しく活発な授業が出来た。このような授業を毎日すれば、生徒の学力は高まるだろう。田舎の貧しいポットロン小学校で、こんな良い授業をしていることは驚きだ。SSFCの指導の結果と思う。皆もこの授業を見習って「生徒によくわかる授業」をしてほしい。

■郡教育局職員の司会:チューキリー郡(コンポンチュナン州)の小学校の先生がたくさん来てくれて嬉しいです。今日はいつもより良い授業が見られると楽しみにしています。皆で勉強しましょう。全部の授業を見てください。

■住田代表理事の話:私は2001年からカンボジアに教育支援をし、以前の団体で16年間に小中学校・幼稚園の校舎を合計240校支援しました。今カンボジアに必要なのは「先生の指導力向上」だと思っています。先生が良い授業をすれば、生徒は授業が楽しくなり勉強が好きになります。先生も教えることが楽しくなり授業に熱が入ります。生徒と一体になった授業が出来ます。生徒も分からないことを教え合うようになり、生徒の学力が向上して生徒の心も良くなります。



あいさつをする州教育長代理

司会として説明をする郡教育局職員

あいさつをする住田代表理事

ホームページ: <http://www.ssf.or.jp/>

◆ポットロン小学校「授業発表会」

■イエン・スラー先生 1年国語「単語の読み方書き方」

授業の様子：

授業検討(20日)・模擬授業(21日)通りに、「導入・展開・まとめ」の授業が出来ていた。先生は自作のカードを使って繰り返し教え、生徒は自分の小黒板に答えを書いた。

先生自作の「かるた取り競争」に生徒は熱中し、工夫したまとめのゲームでも楽しみながら覚えさせる事が出来た。

スラー先生は「生徒に良くわかる授業のしかた」4項目を守って毎日指導しているので、授業のしかたが身についている。

落ち着いて日ごろの授業が出来た。生徒たちも活発に発表をした。

参観の先生の様子：

始めから終わりまで授業の様子を熱心にメモしている先生が多かった。携帯で写真を撮っている先生もいた。生徒の発表に頷き、楽しい授業に、笑顔で授業を見ている先生が多かった。

住田の感想：

参観の先生は全員真剣に授業を見ていた。メモを取っている先生も多く携帯で資料を映している先生もいた。私語やぼんやりしている先生は1人もなく、参観の先生全員が授業に入り込んでいた。

生徒の興味を引く導入、ゲームで楽しく勉強させる授業は参観の先生に役に立ったと思う。

イエン・スラー先生は、日ごろから以前に指導された内容を毎日実践している。授業で教えた字を使っての「かるた取り競争(ゲーム)」は、子どもたちの反応も良く、今までに何回もやっているとのこと。

ゲームは、列ごとの班にして、6枚の単語カードを並べ、かるた取り競争にしている。各班で1番多くカードを取った子どもに、黒板に貼った袋からカードを選んで取らせ、書いてある字を読ませる。正答なら褒める。

先生の工夫が成果を出した授業だった。

◇全体研究会での話し合い(当番の先生による授業評価)

イエン・スラー先生とチャン・スライ・チャン先生の授業を参観している先生の中で、授業の流れ(出欠・導入・展開・まとめ)の表を書いた模造紙を事前に用意して、2人の先生の授業に合わせて記入していた。

後で聞いたが、当番の先生が決まっているとのことだった。

授業中に記入した模造紙を黒板に張って、授業研究を行っている。

登板の先生は、「先生たちの授業はこの表の全てに当てはまる成功した授業でした」と発表して終わった。

ここで、急に郡教育局の司会者から住田に、本日他の学校からの参観の先生に「生徒によくわかる授業」のしかたを指導してほしい」と頼まれた。

時間は1時間あるということなので、SSFCの活動紹介のチャンスでもあったので、すすめ方のポイント4項目を、本日のイエン・スラー先生の授業を基にして説明した。

- ①先生が授業で教える内容をよく勉強する。授業に必要な教具を作る。
- ②教具や復習の質問をして、生徒が授業に興味を持つ方法を考えること。
- ③先生が問題の解き方や答えを教えずに、復習を基に生徒に考えさせる。
- ④まとめではゲームなどで今日の授業がどれだけわかっているか確かめる。具体的に説明したので真剣に聞いてくれた。

先生の指導力向上には、今後もこの「授業研究会」に参加してもらうことが役に立つということを伝えた。



「授業発表会」後の研究会風景(SSFCの活動紹介を含め、「生徒によくわかる授業のしかた」のポイント解説をした。)

※活動内容の報告(バックナンバー)はホームページ「よにゅむ通信」にも掲載されますので、ぜひご覧ください。

◆ポットロン小学校「授業発表会」

「授業発表会」では、失敗例もあります。

■ナウ・ナー校長 4年図書「物語の読み聞かせ」

図書係の先生1人と、本日参加の校長2人が授業参観した授業。

これから「物語:アリは知っている」を読みますから、聞いてください。

校長は、さし絵を見せながら読み始める。

授業の様子：

校長の読み方は上手になった。生徒も真剣に聞いている。だが、校長が感想を聞くが、1年生には難しく答えられない。

校長は生徒にそれぞれ絵本を選ばせ自習にして授業を終わりにした。

住田の感想：

授業が始まってびっくりした。図書室に集まった生徒は1年生だった。

昨日の打ち合わせでは、校長は4年生の教室で授業をすると言うので授業計画は物語の感想を聞くなど4年生用に作り、模擬授業も4年生を対象として行った。図書担当の先生からは「学年によって授業のやり方は違う。1年生にはもっと易しい物語を読んで聞かせ、登場人物などを絵に描かせて発表させるほうが良い。」との“意見”がでた。

昨日は、「今までやったことがない授業のしかただから、心配だけど上手く出来そうな感じがする。子どもがどんな感想を言うか楽しみでわくわくする。」と言っていたが、4年生の授業は木曜日の午前には無いことを校長は忘れていたのか、4年生と同じ指導案で1年生の授業でも出来ると思ったのか分からないが、うまくはいかなかった。

授業検討 4年図書「物語の読み聞かせ」の計画段階では

- ①授業前の勉強：
 - 物語の本を決める・物語を暗記して「上手な読み方」を考える
- ②授業の導入：
 - 子どもに「今まで読んだ本について物語」を聞く
 - 心に残っている感想を聞く(先生は褒める)
- ③授業の展開：
 - 校長が本の絵を見せて物語を読む
 - 子どもに目をつむらせて情景を想像させながら読み聞かせる
 - 子どもに質問する(登場人物を思い出してどんな人か、何をしたら人か)
 - 物語の感想を発表させる(4~5人)
- ④本を読むことについて感想を聞く・・・予定だった。

「説明する時間が」多くなってしまった。

■チャン・スライ・チャン先生 5年算数「時計の読み方・24時制の表し方」

授業の計画：

以前に教えてもらった「距離Kmとm」で習った授業を参考にして授業計画を立てた。厚紙で時計を作り、その上にラップを張ってマジックで時計の針を書けるように教具を準備した。教室の掛時計を見せて、今何時か、わかる子どもに読ませ、読み方を説明させる。

朝起きた時刻や学校に来た時刻を聞く。

黒板に時計の絵と時刻を書いて時刻の言い方が2つあることに気づかせる。昼過ぎの3時と24時間制でのよみかたを覚えさせる。

SSFCからもらった時計の模型を使って、2人1組で子ども同士2つの時刻の読み方を練習させる計画だった。

授業の様子：

先生は計画通りに授業が出来なかった。

また2人に1つある教具時計も理解を深めるためには使われなかった。

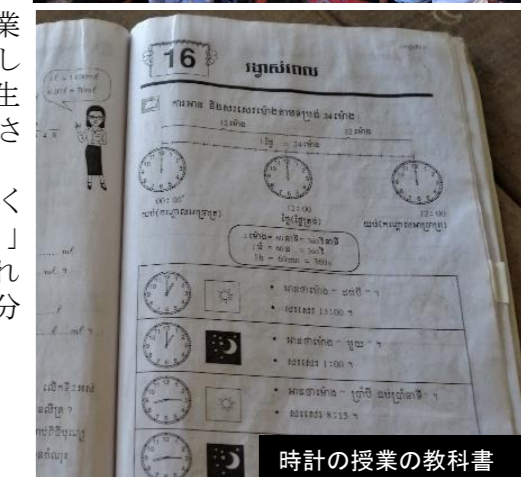
先生の話だけが多くなり、生徒の考えを聞き発表させる場もなく、参観の先生に予定通りには見せることが出来なかった。

初め期待して参観していた先生も、授業が進むにつれて私語が多くなり、教室を出る先生も多くなってしまった。

住田の感想：

時計に合わせて生活をしていない村人たちなので、生徒に時計を見る必要性と読み方を教えれば、生徒は興味を持ち理解が深まったと思う。

きっと「同じ手順でできる」と思ったのかも・・・



時計の授業のしかたを相談する先生



時計の教具をじっくりと見る参観の先生



教具があり授業は賑やかになるが

ホームページ: <http://www.ssfcr.or.jp/>